「神のかたち」で生きる霊性入門

連載 6

我と汝

池田モース優美
いけだ・モース・ゆみ：二〇一九年、米バイオラ大学タルボット神学校パストラルケア&カウンセリング修士課程修了。セカンドレベルミニストリー、ソウルケア部門ディレクター。クリスチャンの霊性、精神的支援のほか、霊的虐待、カルト化教会被害者の回復支援を行っている。

「神のかたち」を自身の生活の中に形作ってゆく、というテーマでお届けしています。

「我と汝」

二〇世紀はじめ、ヨーロッパに世界大戦の惨禍が吹き荒れる中、ユダヤ教の神学者マーティン・ブーバーが『我と汝』[※1]という示唆に富んだ本を記しました。ブーバーはこの本で、人の関係性は二つに分けられる、それは「私と汝（Thou）」か「私とそれ（It）」であると、論じています。

「我―汝」の関係性は、他者の存在を尊重し、対話や直接的な関係を通じて相手と真のつながりをもとうとする関わり方です。相手に対する愛情や敬意、信頼などが「我―汝」の関係性を生み出す血液です。人だけではなく、あらゆる対象と「我―汝」のつながりを築くことができるとされています。

一方、「私―それ」の関係では、世界は自身の欲求や目的を達成するための手段にすぎません。「私」にのみ関心が向けられています。他者は存在していますが、真の意味では存在せず、「私」と「それ」、物体のような関係です。世界は、私を幸福にしてくれる、私の目的を達成させてくれるための手段です。

「私」と「それ」

人を条件で見るということは、私たちの社会に深く浸透している価値観です。たとえば、「この人（もの）は、私をどれだけ幸せにしてくれるか」「私の願いをかなえてくれるか」というフィルターを通して世界を見つめることはよくあります。自分の配偶者、子ども、親に対して、また、友人知人、同僚、従業員、部下、生徒、ご近所さんなどに対しても、同じようなことが起きます。「私」と「それ」の世界観は、他者を商品のように見つめ、消費する在り方です。

例えば、ピーター・スキャゼロは著書『Emotionally Healthy Spirituality』の中で「私とそれ」は次のような関係だと言っています。

・挨拶もせずに入ってきて、自分の仕事を部下に丸投げする。
・ミーティングでは、組織図の上で人を物のように、あるいは人間以下の存在のように動かす。
・妻や子どもたちが自分の自由、夢、自律性をもっていないかのように扱い、彼らが私の頭の中にある絵のようになることを期待する。

（以上 ※2）

※1　原著『Ich und Du』、英訳『I and Thou』

社会に生きるということは、私たちが「それ」として扱われる過程を通過することかもしれません。受験戦争や就職活動はもとより、あらゆる場所で学歴、容姿、経済力、コミュニケーション能力のラベルづけが始まります。そこには数多（あまた）のマウンティングがあり、インターネットや宣伝広告では、他者を商品のように見つめ、消費しています。

「汝」のあなた

イエス・キリストは「それ」として扱われている私たちに、「汝」と呼びかけます。「汝」は、私たちが根本的にどのような存在なのか、神は私たちをどのように創造したのか、思い出させる語りかけです。

キリストは、悩む人、苦しむ人の声を聞き、立ち止まり、ひざをかがめ、彼らの表情をご覧になりました。彼らに触れ、会話し、癒やし、立ち上がらせ…。キリストと虐げられている人たちの物語は、一人一人が、敬意を払われるべき存在だという、神の愛を示すものです。そして、そのキリストのいのちが私たちの中に生きるということは、私たちもまた、キリストのように世界に「汝」と呼びかける存在であるということです。

そのためにはまず、「汝」を認めること。言い換えると他者を他者として認める、尊敬するということです。キリスト教的視点で考えると、神が「私」を大切にしてくれるように、他者を理解し、認識する。他者は自分の世界の延長線ではなく、自分とは違う意思と願いをもった存在として、独自性と分離を尊重することです。なぜなら他者も、神にとっての「汝」だからです。

「それ」から「汝」へ

抽象的な話が続いたので具体的に考えてみましょう。

「私とそれ」は私たちの価値観に深く染み込んでいます。例えば次のようにです。

・恋人、家族、配偶者はあなたを幸せにし、仕えてくれる対象だと思っている。
・子どもはあなたの社会的なステータス、幸せの基準を満たすための手段になっている。
・他者とどちらが優れているかということをいつも考える。他者を自分の地位を脅かす存在だと考え、排他的になる。
・奉仕する人は良い信仰者、そうでない人は、信仰が劣っている人。

「我と汝」の関係を築いていくために、関わり方をどのように変えることができるか、考えてみましょう。例えば…

・配偶者が何を感じ、何を経験しているか、願っていることはなにか、耳を傾けて、理解してみましょう。彼らの願いを実現してみましょう。
・子どもさんの価値観とペースを尊重してみましょう。何が好きで、何をしたいと言っていますか。
・排他的な人。自身の心の内側に起きていること、感じていることは何でしょうか？ 他者に対し、どのようにすればキリストの愛で行動できるようになるでしょうか。
・信仰者の良し悪しの基準が、キリストの姿勢と眼差しを反映していますか。その基準は誰のものですか？　聖書と神の基準を自分自身が身につけるためにはどうすればよいと思いますか？

実際生活で「我―汝」を実行するのは、簡単なことではありません。社会は、「我―汝」のために形成されてはいないからです。私たちの人との関わりは、非常に早い速度で変化します。また、「我―汝」の関わり方を虐待・暴力、搾取的な関係に持ち込むことは危険です。ですので、全てにおいてとは言いません。あなたの周りの少しの人、大切な人、今日出会う人に、「汝」として接してみてはいかがでしょうか。あなたを通して、神の眼差し、語りかけが、その人の心に届けられると思うのです。

※2　Scazzero, Peter. Emotionally Healthy Spirituality〈p. 173〉. Zondervan. Kindle Edition. 第7章、I-It relationship